



あたたかい医療をみんなの手で

Human

“きみつだより”

鱈(おじ)号

NO.43 平成15年4月21日発行
編集責任者 茅野 嗣雄
編集者 “HUMAN”編集委員会

玄々堂 君津病院 〒299-1144 君津市東坂田4-7-20 ☎0439-52-2366(代) URL http://www.gengendo.jp/

永島診療部長 玄々堂君津病院副院長に



玄々堂君津病院副院長
永島 嘉嗣

この度、武部院長を始め諸先輩方の推薦により副院長をお引き受けする事になりました。何人かの職員からは「先生、おめでとうございませぬ」と言われましたが、自分自身としては何がめでたいかよくわかりませぬ。医療をとり

診療の質の向上を目指して

まく環境が益々きびしくなる中、自分から苦勞を引き受けようというわけですから、今から多少気が重くなります。当院の歴史を振り返りますと、大学病院を出て地域に高度医療を展開しようとした池田理事長の下に、多くの優秀な医師や職員が集まり現在の病院が出来上がっていることがわかります。歴代の院長では、大学病院でも傑出した池田理事長に、医療全般に深い見識と確かな技術を備えた高田名譽院長、内視鏡と血液浄化を導入し

た茅野前院長、優れた内視鏡と手術の腕を誇る武部現院長が続きました。この間当院を支え続けたものは田舎の民間病院ではあっても確かな知識と技術を備えて、診療のレベルではいつもトップクラスであり続けようという情熱であったと思います。その先輩方が今診療と病院運営にあたって私の意見を求め、聞いてくれます。永島を育てようという暖かい配慮を感じます。諸先輩方、職員の方々、患者様方の期待にこたえる様今後も勉強を怠らぬ、新しい医療を宣伝に惑わされる事なく導入していこうと思ひます。

新体制の基礎を固めて!

平成十五年三月四日、臨時部長会議において、四月一日付で永島診療部長を玄々堂君津病院副院長に任命する人事が、池田理事長より発表され、辞令が交付された。一昨年の武部院長就任、今回の永島副院長の就任により、玄々堂君津病院では、これからの医療を

より発表され、辞令が交付された。一昨年の武部院長就任、今回の永島副院長の就任により、玄々堂君津病院では、これからの医療を

取り巻く厳しい情勢の中を、新しい体制で臨み、取り組んでいくことになった。



総勢131名の参加、かざさアカデミアホールにて

第十五回 院内看護研究発表会開催

二月二十三日、かざさアカデミアホールに於いて第十五回院内看護研究発表会が行われた。看護師、ナースエイド計五名が様々な研究内容を発表した。今回は、その他に四題ポスターセッションの部を設け活発な意見交換が行われた。演題名、発表者は次の通り。

(口演の部)

- 1) 新人教育において指導者と新人が直面する問題と対処
ナースエイド 柴田 てるみ
- 2) 病棟における糖尿病指導の現状
3 A病棟 藤原 まつ子
- 3) 腎移植を受けた患者の心理状態の推移
3 B病棟 中尾 薫
- 4) ターミナル期に不眠な家族の心理について
4 階病棟 吉岡 みつえ
- 5) 気管内挿管患者の苦痛
ICU 西 隆一

(ポスターセッションの部)

- 1) 透析患者の食事指導の評価
(食事表記入に焦点をあてて) 2 階透析室 佐生 美津子
- 2) 透析患者の不眠の実態調査
坂田クリニック 重松 さち子
- 3) 2階病棟入院患者家族の介護保険制度に対する認識の実態
2 階病棟 塘 朝子
- 4) 糖尿病患者の退院後の受診、および血糖コントロール状況
2 階病棟 伊藤 悦子

高橋孝喜先生 東大輸血部教授に就任

昭和五十九年から、当院の専門外来アレレギー・リウマチ科を担当されている高橋孝喜先生が、平成十五年一月、東京大学病院輸血部教授に就任された。先生からは、



東大輸血部教授
高橋 孝喜先生

「これからは、玄々堂のリウマチ外来を大切に続けていきますので、宜しくお願いします。」とのコメントを頂いた。

外来待合室に プラズマテレビ三台設置

外来待合室に三台のプラズマテレビが設置された。外来診療を待っている患者様にニュースや医療情報として生活情報など様々な情報を供給するのが目的で、診察待ち時間が少しでも有効な時間になるようにという配慮から導入された。



お待ちになって
いる間にご御
覧下さい。

二〇〇三年 インフルエンザ白書

平成十四年十二月一日から平成十五年二月二十日迄に当院を受診されたインフルエンザ罹患者数は、三百五十二名に上った。大流行が予想されていた今シーズンでは、昨シーズンより約一ヶ月早く厚生労働省より予防対策の呼びかけがあったが、当初の予想をはるかに上回り、一月二十日までの罹患者率は、昨シーズンの約八

外来診療情報

四月から診療体制が変更になった。(詳細は四画。整形外科の診療日、一般外来担当医、各種予約外来日の変更がなされた。長い待ち時間の短縮のため、診察室の振り分けなど様々な工夫がなされている。病院としては今後も患者様が快適な診療を受けられるよう改良を加えていく方針である。

「糖尿病教室開催」 インスリン使用者を対象に

三月一日、第三〇回糖尿病教室が開催された。「インスリンについて」というテーマで、荻野良郎診療技術部長よりインスリンの講義、上野検体検査室長より血糖測定器と使用方法の説明、浅倉薬剤師よりインスリンの注入器と使用方法の説明、鳥飼看護師主任よりインスリンの注射手順についての説明が行われ、三十三名の参加者は真剣に聞き入っていた。

玄々堂活き活き倶楽部 放映終了

木更津ケーブルテレビとタイアップで製作されたテレビ番組「玄々堂活き活き倶楽部」の放映が三月で終了した。この地域における現在行われている医療を救急から在宅まで取り上げ好評を博したが、今後はこれからの医療を考へる新しい視点でパートIIが計画されており、この春の放映を予定している。

健保組合ボウリング 大会で健闘

三月十六日千葉リハビリテーション、第三〇回千葉県健保組合ボウリング大会が開催された。当院からも団体戦個人戦と十名の選手が参加し、三十チーム中十四位の成績であった。選手たちは心地よい汗を流し、運動不足とストレス解消に良いとボウリングを満喫していた。

永年勤続表彰者

- (20年)
- ・有富 義枝
 - ・伊藤 広美
 - ・佐藤 てる子
 - ・高瀬 芳江
 - ・平野 明美
- (10年)
- ・塘 朝子
 - ・大村 佳子
 - ・勝呂 知恵子
 - ・渡邊 陽子
 - ・大島 雅代
 - ・宮城 隆子
 - ・赤坂 桂子
 - ・高木 貴子
 - ・織本 綾子
 - ・渡邊 絵理子
 - ・裕子 里子
 - ・恵里 幸子
 - ・ゆか 佳子
 - ・弘光 佳子
 - ・上本 祐子
 - ・宮利 裕子
 - ・利光 裕子
 - ・児玉 裕子
 - ・野谷 裕子
 - ・板倉 裕子
 - ・篠崎 裕子

千葉県放射線技師会 学術大会当院も参加

二月一日、二日の両日にわたり



当院からも団体戦個人戦と十名の選手が参加し、三十チーム中十四位の成績であった。選手たちは心地よい汗を流し、運動不足とストレス解消に良いとボウリングを満喫していた。

国民宿舎サンライズ九十九里に於いて、第五十三回千葉県放射線技師会学術大会が開催された。研究発表や、テーマ討論では各演者とフロア間で活発な意見交換が行われ、多方面にわたってまさに「元気」のある学術大会となった。当院からの発表者は以下の通り。

- ・一般演題
「MDCCTの使用経験」 岩間勝彦技師
- ・テーマ討論
「放射線技師の装置管理」 有岡輝輝技師

医療の現在とこれから

～ 医療経済を中心に ～

ある友人への手紙

前略

貴兄の相変わらずのアクティヴ・ライフには脱帽です。エネルギーレベルの違いを感じています。

世田ヶ谷市民大学での医療経済の講義資料をお送りいただきありがとうございます。医療政策、医療管理の講座を持っているK大学教授の講義内容の抄録も、貴兄の相も変わらぬ鋭いコメントと共に、一読させていただきました。

正直なところ、現場の我々は、大分ズレているという気がします。ただ、これは言うべきことを言わないで来た我々現場の医療者にも責任があるでしょう。

経済学に明るい貴兄は、日本の医療が、市場主義経済ではなく、統制経済(一つの診療行為に公定価格があるということ)の下で稼働していることは御存知のことと思います。市場原理に支配されている一般経済社会では、いい物を効率よく作れば高い価値を生んで、それによる経営的愛好結果が、さらにいい物の拡大生産を促

由来しているのです。で、大学の先生や官僚諸氏は、本来は避けて通れない筈の「一番大事な矛盾(乖離)に関する論点を、意識的に避けている」と思

いつか一夜、行きつけの「丹」で飲んだ時、T兄が、「病院の長すぎる待ち時間は何かならんのか、企業としては論外だぞ」と難じていたことは、貴兄も御記憶のことと思います。

受診を希望して来られた患者さんを断るわけにはいかないし、現行の保険点数制度では、診察料は五九〇円という

公定価格に決められていて、三分診療でも、十分な時間をかけて診察し説明(これを実行している医師もたくさんいます)しても、診察料は同じなんだよ、と言っただけのもの、結局、納得して貰えませんでしたね。市場原理

が貫かれている経済社会で錦を削って生きて来た彼は、そんなのありえないことだ、と思っただけでしょう。貴兄が指摘する「情報の非対称性」がいけないんですよね、たぶん。

いに決まっています。で、当院で今の外来受診者数をそのままとして、これを

実現するには、診察室を六つ増設し、実力と誠意を併せ持った医師を大幅に増員するしかありません。(T兄の主張する予約制は、根本的な解決策にはなりません。このための資本投

下と人件費増は、現行の保険点数制度の下では、間違いなく経営破綻につながります。又、短い診療時間と情理を

尽くした説明が出来ないことに苛立ち、やり切れない思いをしているのは実は医師も同じです。

かつて私と一緒に仕事をし、今は会津若松市で開業しているE医師のところに、毎日百五十人の患者さんが来院しています(患者さんは大病院に集まるのではなく、実力と使命感を兼ね備えた

(うちのN副院長も、全く同じことを言っています)には、泣かされるという

か、痛い程に共感してしまいます。市場主義社会では通用しない、乖離を生む例をも一つ。胃腸手術の保険点数は四二六〇点ですが、これは、卒業

五年の医師が手術をした場合も、手術歴四十年で彼よりも高い給与をとる私

がやっても全く同じです。そして、これに類した保険点数の設定が、それぞれ数限りなくあることが問題なのです。

繰り返すに繰り返すけど、患者さんの三大不満は、もともと通らなければいずる医療の最悪性と経営の最悪性の乖離に由来し、この乖離は、一つの診療行為に保険点数という公定価格があることと、この決め方に「偏向」(非合理的で偏っている)があることに源を

価する点数配分を実現すれば、医療従事者の質の向上へのインセンティブを引き出すことにもつながり、今問題と

なっている乖離と三大不満が同時に解消に向かうという、うまい話になるのです。でも、今の日本で、これを実現するには、点数改正に関わる中野協を

はじめ、官僚機構、医療周辺産業といった強い相手と本気で向かい合う覚悟が必要です。

更に言えば、今迄の診療報酬制度の中では、全く無視されていた、安全対策、情報開示や説明、職員の研修・教育、この夫々に対するコスト(一般企業では、これらに要するコストは商品

の単価の中に織り込まれますよね)が診療報酬の中に新たに組み込まれることが、どうしても必要です。

「医師が、医学的見地から、もっとも望ましいと判断した医療行為を行った時」という部分が、それです。

医師が患者さんを前にして、常に新しい知見と技術を持ち、医師にふさわしい人間の資質を持って、職業的倫理を貫くということ、更には、資質のある

医学生・研修生を選んで、「もっとも望ましい判断」の出来るまっとうな医師を数多く育てること、我々医師集団

は、あるべき医療制度の実現を主張した瞬間に、この二つの条件を突きつけられていることになるんですよ。

そして、この二つを保障する医師評価制度と教育制度を、自らの手で確立すること……うん、これは正直言って難しいです。でも、患者さんに満足

「医師が、医学的見地から、もっとも望ましいと判断した医療行為を行った時」という部分が、それです。

医師が患者さんを前にして、常に新しい知見と技術を持ち、医師にふさわしい人間の資質を持って、職業的倫理を貫くということ、更には、資質のある

医学生・研修生を選んで、「もっとも望ましい判断」の出来るまっとうな医師を数多く育てること、我々医師集団

は、あるべき医療制度の実現を主張した瞬間に、この二つの条件を突きつけられていることになるんですよ。

そして、この二つを保障する医師評価制度と教育制度を、自らの手で確立すること……うん、これは正直言って難しいです。でも、患者さんに満足

【最近の医療経済】



事務部長 山口 稔

医療制度上でも、第四次医療法改正に定められたその他病床の区分が、一般(急性期)療養(慢性期)の区分の届け出が八月に期限を迎え、当院は一般病院に機能を定めています。

二次医療機関における機能分化が明確にされ、そのネットワークで効率的医療提供体制を構築するとされています。そのような変革の中で、更に情報開示、電子カルテに始まる医療のIT化がもたら

られ、医療の安全対策、マンパワーの充実等の良質な医療の充実のためのコストが求められています。

病院経営の安定を図るためには、「医療の質」の向上だけでなく、「医療経営の質」の両面を指さないと生き残れる病院に生まれません。

「医療経営の質」についていえば、家計でもそうであるように、「収支のバランス」を保つのが基本です。

当院の「入り」の部分は、社会保険収入と国民健康保険収入がメインとなり、病院機能が一般病院に類別される中で、医療保険収入の「入り増」を構築する必要があります。後には強く求められます。受診抑制政策の中で、保険収入の伸びが期待出来ない現在、求められるのは、各職員の生産性の向上で、人材の

有効活用が医療経済の鍵となると思っています。

「出る」部分は、全ての経費の見直し、つまり経費ダイエツトがツツして、強い筋肉を残し、更に強い筋肉に鍛える事が必要です。更に大切なことは継続することです。自主的贅肉カット運動を継続することが大切です。

どの医療機関でも、取り組み実践され、検討されている医療経済の現状です。計画と実行力を持ち、実行する強い意志が必要で、そうすれば成果はついて来ます。成果は喜びと満足感に充たされま

す。やるべきことをやりましょう。

有効活用が医療経済の鍵となると思っています。

「出る」部分は、全ての経費の見直し、つまり経費ダイエツトがツツして、強い筋肉を残し、更に強い筋肉に鍛える事が必要です。更に大切なことは継続することです。自主的贅肉カット運動を継続することが大切です。

「偏向」の是正から始めなければ話になりません。(総医療費の抑制に始終するのは見当違いです)

日本の総医療費三十兆円の内訳をみると、薬代の比率が三〇%約九兆円

で、これはアメリカの薬代三兆円の三倍に当たります。(これは「偏向」だけでなく日本の薬価を世界一高いものにしてる製薬資本の体質と、その流通機構の不健全さも関係しています。)

「情報の非対称性」を出来るだけ少なくして、T兄、いや患者さんとの相互理解や、信頼関係を、より確かなものにしたと願っています。判つてもらえるでしょうか。

さて、次の問題は、これらが実現すべき医療制度とはどんなものかということ

です。ここ迄の論理の道筋を辿っていくと、それは、「医師が(官僚でも保険者でもなく)医学的見地から(財政的な見地からでも、経済的見地からでもなく)もっとも望ましいと判断した医療行為を患者さんとの合意の下に行つた時、その時必要となった費用が、その医師の所属している病院の収入と一致するような制度」ということになる筈です。そして、これは又、今私が一民間病院で患者さんを診ながら、「こうでなくちゃやっつけられない」と実感しているものでもあります。

「医師が、医学的見地から、もっとも望ましいと判断した医療行為を行った時」という部分が、それです。

医師が患者さんを前にして、常に新しい知見と技術を持ち、医師にふさわしい人間の資質を持って、職業的倫理を貫くということ、更には、資質のある

医学生・研修生を選んで、「もっとも望ましい判断」の出来るまっとうな医師を数多く育てること、我々医師集団は、あるべき医療制度の実現を主張した瞬間に、この二つの条件を突きつけられていることになるんですよ。

Y兄へ

高田眞行拝

シリーズ「病気を考える」 37

島の医療



医師 中西 庸夫

た。そして、飛行場よりさらにバスで二時間三十分程南下した所に、私の勤務する病院があった。

私の働いた場所

いずれ、僻地、離島での医療と生活を夢見ている私にとっては、病院からの奄美大島での勤務については、

平成十三年五月一日、私は羽田発奄美大島行き飛行機に期待に胸膨らませ乗り込んだ。二時間後眼下には珊瑚礁の海が広がっている



鹿兒島の南約380kmの洋上に浮かぶ奄美大島は、大島紬や島唄など独特の文化や風習をもつ。赴任先での往診は、島の南部を中心に、加計呂麻島・請島・与路島までに及んだという。中西先生は、「やはり、どこまでも続く透明な海が、なんと言っても最高ですね。」と語っている。

奄美大島の南端に位置する人口九〇〇〇人程度の町。町に一つだけあるコンビニも定休日があり、ひどい台風が来ると牛乳をはじめとする生鮮食品が不足するというような町の中にある病院であった。

いわゆる島での「時間がゆっくり流れる生活」を夢見ていた私にとって、仕事量の多さは大誤算であり、病棟の窓から恨めしく奄美の海を眺める生活を余儀なくされた。

島での診療―病棟―

入院患者さんの診療にあたっては、不安が多かった。島とは言え人工呼吸器を使っている全身管理になる患者さんもある。教科書だけでは見えない病気の緊急の対応が必要な不整脈、頼みの院長は不在。もっと大きい病棟までは救急車で一時間。自分だけで治療を進めていかなければならない状態では、地元の病院の先輩医師に真夜中に電話をかけ、治療法を聞くということも多々あった。もっと知識と経験があれば、と悩むことも多かった反面、大きな病院に行くことを拒否した患者さんが元気に退院していく姿を見ることは、医者としての達成感があり非常に嬉しい出来事であった。

島での診療―往診―

二週間に一回程度の往診は仕事

とは思えない程楽しい時間であった。一軒の往診に三十分程の時間をかけることができ、患者さんの家でお茶をよばれながら、ゆつくり話を聴き診察ができた。(お年寄りの奄美の方言は難しく、一緒に往診に行くってくれる看護師さんの通訳なしには会話が不可能であったりしたが...) 島での往診に限った事ではないが、患者さんの家に行き生活の雰囲気を感じることは、ちょっとした薬の処方などにも役立つ。「このおじいさんの介護をされているお嬢さんは昼間は漁に行っているんだ。昼間は薬が飲めないから長い時間効果が持続する薬にしたほうがいいな。」とか、「入院していたときは一度も脱水にならなかったのに、クーラーもない、窓も開けない生活じゃ脱水になってもしょうがないな。」

往診の時だけでも点滴したほうがいいな。」などと考えることは、一人の患者さんにとつて時間がかける島での往診でこそ気が付いた事であり、ちょっとした喜びであったと思う。丸一日患者さんの家を訪ねた後は、家を出して貰ったお茶の飲み過ぎでお腹はいっぱいになっていた。

島で考えたこと

僻地、特に離島での医療は、都市部での医療に比べ、多くの問題点を抱えている。

う場合が多い。かつ、重症である事に気付いた場合でもすぐに病院に行くことが出来ない。また、台風などの天候不良により船が出せない場合もある。請島・与路島からの患者さんはやはり来院が遅れて重症化している人が多いと聞いた。

次に、医療のレベルがその病院で働く医師の技量により大きく左右される。複数の医師が同じ患者さんの情報を共有している状態であれば、それぞれの意見を交換し合いより良い治療を望めるが、医師が一人しかない状況ではどうしても治療は偏りがちになってしまう。また赴任する医師が変わると治療のプランが変更してしま

る人が多かった。島に行くまでは、若い私が行った医療行為についてベテランの医師のチェックが入った。しかし、医師不足の島では、自分の治療上

の見落とし、対応の遅れはそのまま患者さんの病状の悪化に直結した。かといって患者さんは難病であつても必ずしも本土での専門医療を希望するわけではない。生まれた土地で治療を受け、場合によってはその土地で死にたいと願っていた。病気の治療だけが生活のすべてではなく、患者さんの医療を選択する権利は非常に限られていた。島で働いている間、一人の医師としての責任について考えることは多かった。

最後に

たった三ヶ月間の島での医療経験であったが、島でこそ感じられる医者であることの喜びや、離島での医療の問題点を少しだけ感じることができたと思う。この時の経験が、以後の診療に役立てれば、と考えている。



検査科 西川 栄子

陽だまりにおおむねのふぐりが咲いています。このブルーの花が咲くともう春です。

私の学生時代は、山歩きもしていました。最近はおおむねのふぐりが咲きました。最近はおおむねのふぐりが咲きました。最近はおおむねのふぐりが咲きました。



自然を満喫し、心もリフレッシュ!

した。

この情報はインターネットで検索できます。イベント参加料は無料です。交通費は自己負担ですが事前参加を申し出ますと、記念バッチ又はポストカードがいただけ、地域のお土産や、美味しい物産品も手にすることができ、ことあるとあって楽しいものです。

最近では房総和田浦の花嫁街道に行ってみました。そこでいただいたみれ汁の味は忘れられません。旅の記念写真も今は便利なデジカメがあるため、たくさんとってはお気に入りの一枚を印刷しています。ハイキングはダイエットの効果はさることながら、心のリフレッシュ効果も大きいものがあります。

おおいぬのふぐりも咲いたことで、すし、ひとつうおーキングシューズを新調して春の野山に出かけましょうか!! 皆様にも、そして私にとつても、人生のゆくえが軽やかでありますように祈りをこめて

グッドラック!!

関連施設紹介

その4 木更津訪問看護ステーション



玄々堂木更津クリニック内にある木更津訪問看護ステーション

当ステーションは、平成十一年二月に開設し、木更津市内を中心に訪問看護を行っています。事務所は玄々堂木更津クリニック内にあります。更津クリニック内にありますが、独立したステーションですので、どこかの病院にかかっても主治医の先生から指示があれば訪問看護を利用していただくことができます。又、訪問看護は医療保険と



介護保険のどちらにも適用で、利用される方の状況により振り分けられます。

利用されている方の中には、自宅で人工呼吸器等の高度な医療機器をつけながらの方や、買い物に行けるようにとリハビリをしている方、人生の最期を住み慣れた我が家で迎えようとされる方等、様々な方がいらっしゃいます。

私たち訪問看護師は、お宅を訪問し健康チェックや医療機器の管理、寝たきり予防のリハビリ、医師の指示による処置等を行います。が、何より在宅療養されている方や介護されている御家族様が安心して過ごせるよう専門家としてお手伝いできたかと考えております。



木更津を中心に活動中

四名いるスタッフ全員が介護支援専門員の免許を持ち、看護職としての特性を生かしたケアプラン作成のお手伝いもしております。訪問看護の事や介護保険の事、どんな事でもお気軽にご相談ください。

人事往来

【役職変更】

- 副院長 永高 嘉嗣
- 君津訪問看護ステーション所長 板倉 裕子
- 保育所所長 児玉 佑佳
- 看護師長 鈴木 明美

【異動】

()内は旧所属部署

- 2階病棟 木村 純子 看護師長 (4階病棟)
- 3階B病棟 石橋和加子 (看護部長室)
- // 小石紀代美 (看護部長室)
- 4階病棟 石井 ルミ (2階病棟)
- // 波多野芽久美 (透析室)
- // 谷 美行 (看護部長室)
- 手術室 中島 ユミ (坂田クリニック)
- 集中治療室 高梨 征子 (看護部長室)

結婚・出産

【結婚】

()内は旧姓

- 平成15年
- 2月 松本 紫織 (幡手)
- 2月 黒川 美紀 (小松)
- 3月 梅澤 理枝 (前川)

【出産】

()内はベビーの名前

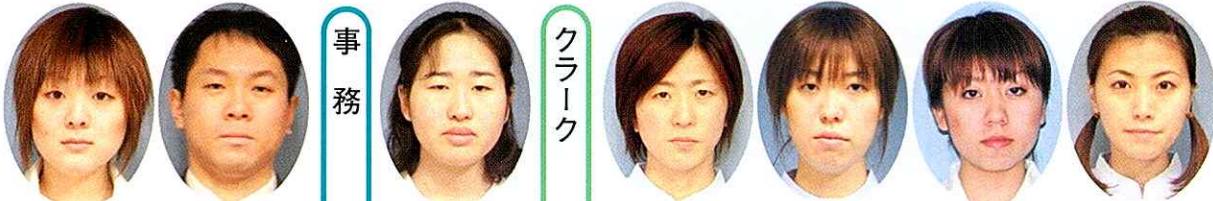
- 平成15年
- 1月 岩間 勝彦 (奏順)
- 2月 石橋 和加子 (拓真)
- 前川 晴美 (莉香)
- 3月 原田 洋子 (拓弥)

平成15年度《新入職員紹介》



たんの 丹野 洋美 ひろみ 近藤 沙由 こんどう さゆ みうら 三浦 綾子 あやこ はやし 林 貴子 たかこ ながお 長尾 愛里 あいり まつの 松野 悦子 えつこ かわの 河野 倫子 みちこ

看護師



すどう 須藤 さやか さやか かわしま 川島 英丈 ひでたけ おおの 大野 智佳子 ちかこ きみえ 大野 君江 あだち 足立 香寿美 あずみ たかだ 高田 あゆみ あやこ こまざわ 駒澤 亜矢子

事務

クラーク

看護助手



おだ 小田 嶋忠延 だしま だしま ぶちう え 淵上 孝一 こういち さわむら 澤村 華絵 はな え せき 関 利枝 としえ いけうら 池浦 恵子 けいこ ほなだ 花田 こそえ

放射線技師

臨床検査技師

栄養士

保育士



サブタイトルは “鱈あじ”
今号からサブタイトルが魚に変わりました。今回はアジです。
アジの種類はスズキ目アジ科であり、本種はアジです。アジ科の仲間には、メアジ・ムロアジ・マルアジなどがあります。
アジは体長二十センチからサバタイトルは五、六年で、夏に産卵を迎えます。
アジ科の魚には、体の測線の後部に稜鱗(せんと)と呼ばれるギザギザの鱗があるのが特徴です。
アジは一年中見ることが出来ますが、旬はやはり脂の乗る初夏とされています。アジは、大変味の良い魚で、刺身・塩焼き・揚げ物など沢山の調理方法があります。房総名物料理



とがし 富樫 めぐみ さくま 佐久間 政実 まさみ とりか いしん の すけ 鳥飼 新之介

調理師

放射線科助手

平成十五年 幹事紹介



幹事長 武田 和彦
平成十五年の幹事長を務めさせていただきますことになりました。放射線科の武田和彦です。本年度も多数の病院行事が予定されていますが、職員の皆様の御協力をいただきながら一年間盛り上げていきたいと考えております。
今年度のスタッフの中には男性職員が六名も選出され、例年以上のパワーアップが期待されるとい

幹事会新メンバー

- 副幹事長 立石 好行
- 幹事 大野 八朗
- 山口 佳菜 藤平 努
- 藤原 真理 元村 一成
- 高野 秀子 茂森美沙緒
- 鈴木 光 茂田 昌子
- 池谷 文良 吉田久仁子

「なめるう」には、アジが欠かせません。是非、食卓の友としてご活用下さい。
さて、魚には骨という別字がありますが、語源を存じでしょうか？昔々、酒のつまみを酒菜と呼び、後に「酒肴」となり、「肴さかな」となりました。そして、つまみの代表的なものが「魚であった」とから、読み方が「さかな(魚)」となったとされています。以上、豆知識でした。

編集後記

今年度の新メンバーです。よろしくお願致します。
▼目覚めると、子供の足が、目の前だ。(いち)
▼写真は何か撮ってもこの顔です。今年も宜しくお願いします。(くまのプーさん)
▼新聞委員三年目になりました。今年こそは新聞委員のシンクスを信じてみたいと思います。(ゼクシイ)
▼春らんまん。いい風が吹くとよいな。(ぼたん)
▼我が子もとうとう幼稚園です。本当に、「あつ」という間でした。(いけゆか)

外来診療予定表 平成15年4月現在

	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)	(土)
午前一般	茅野 武部 荻野 仁和 8:30~10:00	永高 大崎 常勤医 竹田 8:30~10:00	高田 荻野 大崎	武部 小川 根津	梅谷 釣田	高田 永高 当日担当Dr
午後一般	永高 荻野 仁和	山村 鈴木(潤) 鈴木(俊)	湯城 山村	中川 小川	永高 日並	長谷川 中西 当日担当Dr
夜間外来	武部 大崎 長谷川	永高 荻野 日並	湯城・頌所 中西 呼吸器科(予約)	中川 小川 梅谷 神経科(隔週・予約)	鈴木(潤) 鈴木(俊) 釣田	休診
午前外来	永高(血管外来) 辰巳(整形外科)	茅野 清水(神経内科) 月1回 荻野(糖尿病・甲状腺)	武部 呼吸器科	高田 程原(整形外科) 荻野(糖尿病・甲状腺) 長谷川(乳腺外来)	高田 栗林(整形外科)	茅野(隔週) 荻野(糖尿病・甲状腺) 柴芝(糖尿病・甲状腺) 月1回 高橋・富岡・佐藤・松井・岡崎(アレルギー・リウマチ科) 小沢(乳腺外来) (隔週) 山崎・木原(泌尿器科)
午後外来	茅野 武部 辰巳(整形外科) 岩崎(泌尿器科)	大崎 湯城(隔週) 頌所(隔週) 竹田(循環器科)	呼吸器科 高田(肝臓病外来) (隔週)	大崎(腎不全・移植外科) 程原(整形外科) 荻野(糖尿病・甲状腺) 神経科(隔週)	栗林(整形外科) 尾野(神経内科)	荻野(糖尿病・甲状腺) 柴芝(糖尿病・甲状腺) 月1回 高橋・富岡・佐藤・松井・岡崎(アレルギー・リウマチ科) 小沢(乳腺外来) (隔週) 古谷(整形外科) 本田(循環器科)

*予約診療に関しましては変更的になりますので予めご確認ください。
*外来担当医師診療予定は、毎月初めに発行されます。詳しくはこちらを御覧下さい。

▼我が子もとうとう小学生です。寄り道せず帰ってこれるか心配です。(かずま)
▼気づいたら中学生の母でした。希望と現実のギャップが心配...。(ゆうま)
▼シャンプーしなくちゃ。でも、しんどい。三十六kg・毛むくじゃら・愛犬(?)...。(いけゆか)
▼今年の花粉はすこいって毎年いつているね。(山口 稔)